

株式会社ケー・エフ・シー

2026年3月期第2四半期 決算説明資料

2025年11月14日



I . 決算概要・業績予想	P.4
II . 経営戦略	P.15

サマリー(2026年3月期第2四半期決算および通期業績予想)

■2026年3月期第2四半期 決算

売上高 122.8億円(前期比5.2%増) 経常利益 3.1億円(前期比130.5%増)

- 商品販売は前期同水準で推移、手持工事の順調な進捗により売上高は増加
- 売上高の増加や完成工事における粗利益率の改善により、経常利益は前年同期比で回復傾向

※なお、建設事業における一部大型工事物件の追加工事分先行着手により、個別での利益面について、2025年5月15日公表の業績予想数値と乖離がございます。

■2026年3月期 業績予想(数値修正なし)

売上高 265億円(前期比1.6%増) 経常利益 15.5億円(前期比6.2%増)

- 耐震関連工事の堅調な受注、手持工事の順調な進捗により増収の見込み
- 売上拡大に向けて、高付加価値商品の販売拡大、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への取り組み、また技術提案営業による他社との差別化に向けた取り組みをすすめる
- 原材料価格や運送費高騰による粗利益の低下、人材への投資や設備投資の積極化による営業費の増加などが見込まれるが、コスト管理の徹底など収益改善への取り組み強化により経常利益達成を目指す

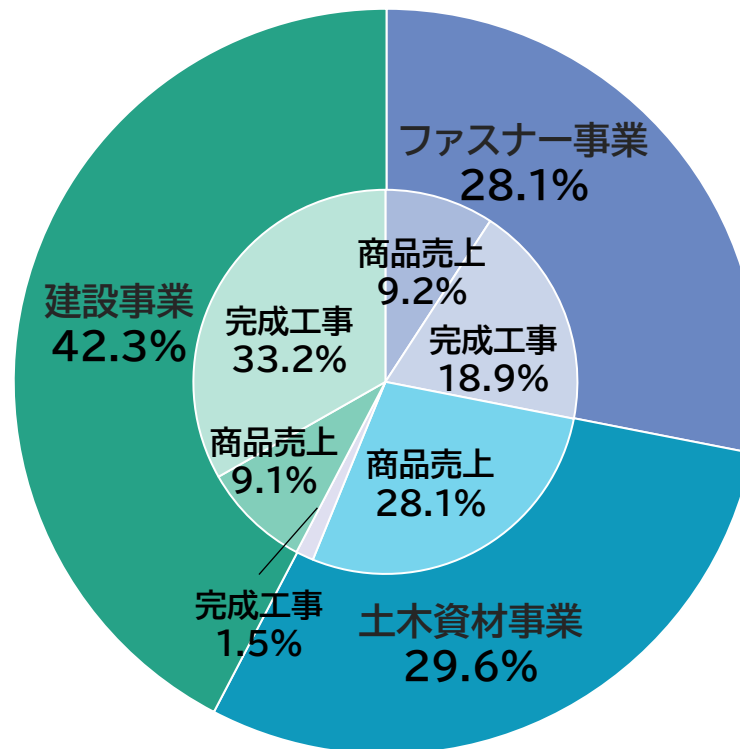
決算概要・業績予想



1. ケー・エフ・シーグループ概要

- 自社工事だから出来る現場視点での顧客ニーズを捉えた製品・技術開発による他社との差別化
- オーストリアからNATMを導入、独自技術に発展させたロックボルトや遮水シートなどトンネル掘削資材のトータル提案によりロックボルト販売全国シェア約60%（※2025年3月期、自社調べ）
- 現場ニーズを掴み、技術提案力を元に独自工法を開発、元請受注力を高め、全国での自社施工体制を構築。新設工事から補修工事までをこなし、緊急工事対応で顧客の信頼を得る

売上構成
(連結:2026年3月期第2四半期 122億円)
※ セグメント間取引の調整をしております



建設事業

- トンネル内装及び耐火工事及び遮音壁設置工事等の環境工事の設計・施工
- 防護柵設置工事及び落下物防止工事等安全施設工事の設計・施工
- トンネル補強工事及びビル外壁補修工事等リフレッシュ工事の設計・施工
- トンネル内照明及び防災等設備工事並びに橋梁部設備関連工事の設計・施工

ファスナー事業

- 各種「あと施工アンカー」類の販売・施工
- 鋼材及び各種金物の製作・販売
- 耐震関連資材の販売
- 電動工具類及び付属ビットの販売
- 建築物等の耐震関連工事の設計・施工
- 道路及び鉄道橋脚等の耐震関連工事の設計・施工

土木資材事業

- ロックボルト等トンネル支保材料の製造・販売
- ドライモルタル等ロックボルト用定着材の販売
- トンネル用防水シート及び附属品並びに溶着機等施工機械の販売
- ウレタン注入剤等トンネル用岩盤固結剤及び注入機等施工機械の販売並びにレンタル
- 遮水シート、防水シートの輸入販売、設計、施工

①決算概要総括

業界環境

- 公共建設投資額は堅調なものの、世界的な物価高の影響や慢性的な人材不足、建設DX化の停滞など業界の課題は解消しておらず、リスクの内在する不透明な事業環境は継続

売上面

- 手持工事の順調な進捗（ファスナー、建設）、高付加価値製品の販売の伸長（土木）により増収

連結売上高 12,284百万円 ※セグメント間取引調整後の金額 前期比 +608百万円 +5.2%	ファスナー事業	3,592百万円	+284百万円 +8.6%	■ 前期に受注した手持工事が順調に進捗 ■ 商品販売は僅かに減少
	土木資材事業	3,785百万円	△159百万円 △4.0%	■ 西日本地区でのロックボルトやトンネル補助工法の資材販売の減少 ■ 特異な地山性状に対応する特殊ロックボルトや補助工法資材の販売伸長
	建設事業	5,417百万円	+534百万円 +10.9%	■ 手持工事は堅調に推移 ■ （連結子会社）道路橋脚一面耐震補強工事の工事進捗が順調に推移

利益面

- 原材料価格の高騰や人件費の増加のなか、売上高の増加により増益

連結経常利益 319百万円 前期比 + 180百万円 + 130.5%	ファスナー事業	117百万円	△3百万円 △3.0%	■ 土木耐震せん断補強(RMA)および民間建築改修工事の工事採算の改善 ■ 商品販売の原材料価格および運送費の上昇により粗利益減少
	土木資材事業	177百万円	△68百万円 △27.7%	■ 西日本地区でのロックボルトやトンネル補助工法の資材販売の減少
	建設事業	23百万円	252百万円 +210.5%	■ 追加工事にかかる原価先出しによる利益の低下 ■ 管理者不足による社員の採用に係る原価増 ■ （連結子会社）道路橋脚一面耐震補強工事の工事進捗が順調に推移

2. 2026年3月期第2四半期決算実績

②セグメント毎実績

ファスナー事業

- 民間建築耐震改修工事が顕著に発注され、売上に貢献
- 土木耐震補強・補修工事の順調な受注
- 商品販売は僅かに減少



<主要施工・納品実績>

- 水元給水所耐震補強工事
- シャトー小金井外壁修繕工事
- 目黒セントラルマンション耐震補強工事
- 名古屋第二環状自動車道 山田高架橋他14橋耐震補強工事
- 名古屋第二環状自動車道 勝川高架橋他7橋耐震補強工事
- 山久保浄水場No.2浄水池改築工事
- 徳島自動車道 泉谷川橋他4橋耐震補強工事
- 巽配水場1～3号配水池耐震改良工事他
- 中国自動車道(特定更新等)榎野川橋他2橋床版取替工事(その2)
- 牛深魚港水産物供給基盤機能保全(ハイヤ大橋橋梁補修2)工事

土木資材事業

- 新設トンネル発注物件は全国的に減少傾向
- 各商材の販売シェアは堅調に推移
- 地方自治体、電力などでトンネル補修工事物件は増加傾向
- 原材料価格や運送費の高値継続、鋼材は横ばいから若干低下

<主要納品実績>

- 北海道新幹線トンネル 各現場
- リニア新幹線トンネル 各現場
- 山形県鼠ヶ関トンネル
- 神奈川県庄戸トンネル
- 岐阜県乗鞍トンネル
- 大分県日田山国トンネル

建設事業

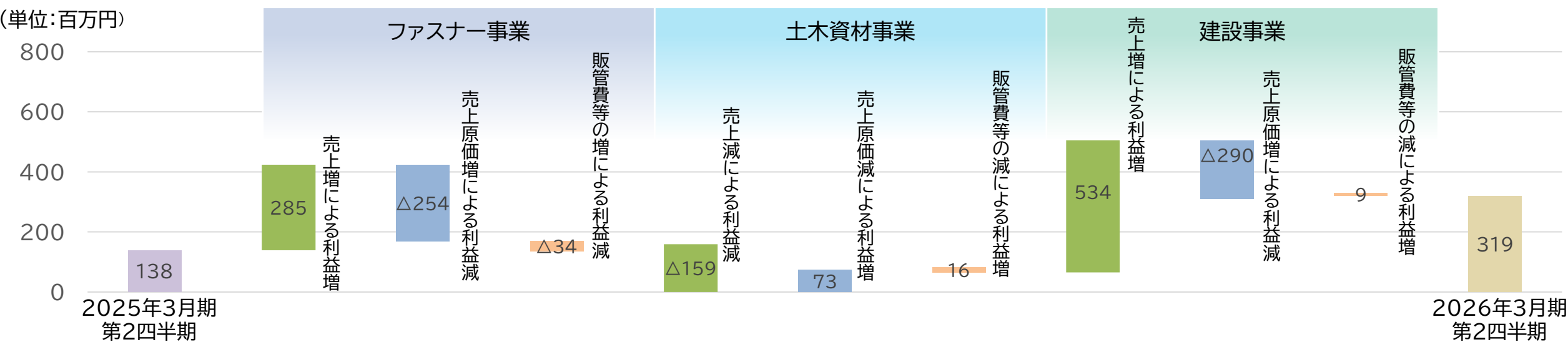
- トンネル覆工補強工事をJVにて施工中
- コンクリート構造物補修工事、トンネル設備工事の受注
- 子会社における道路橋脚一面耐震補強工事が順調に進捗

<主要施工実績>

- 長野自動車道(特定更新等)岡谷トンネル覆工補強工事
- 仙台東部道路 館腰橋補修工事
- 令和4年度 中国自動車道(特定更新等)千代田高速道路事務所管内構造物補修工事
- 新東名高速道路 小山PA～新御殿場IC間遮音壁工事
- 横浜新道 京浜管理事務所管内トンネル補修工事
- 宮崎自動車道(特定更新等)天神トンネル(上り線)他1トンネル覆工補強工事
- 宮崎自動車道(特定更新等)天神トンネル(下り線)他1トンネル覆工補強工事
- 東海北陸自動車道 岐阜管内コンクリート構造物補修工事

2. 2026年3月期第2四半期実績

③経常利益増減要因分析



ファスナー事業	
+284	土木耐震物件の堅調な受注、民間建築改修工事の発注が増加
△254	「あと施工アンカー」等建設資材の原材料価格および運送費の上昇
△ 34	人件費の増加
土木資材事業	
△159	西日本地区でのロックボルトやトンネル補助工法の資材販売の減少
+ 73	鋼材価格は横ばいから低下傾向
+ 16	売上高減少に伴う運送費の減少
建設事業	
+534	高速道路リニューアル工事等の手持工事の堅調な推移、子会社における一面耐震工事の順調な進捗により増加
△290	大型工事物件の追加工事分の原価先出しによる粗利益の減少
+ 9	固定費は概ね前年度並みに推移

2. 2026年3月期第2四半期決算実績

④貸借対照表（B/S）（連結）

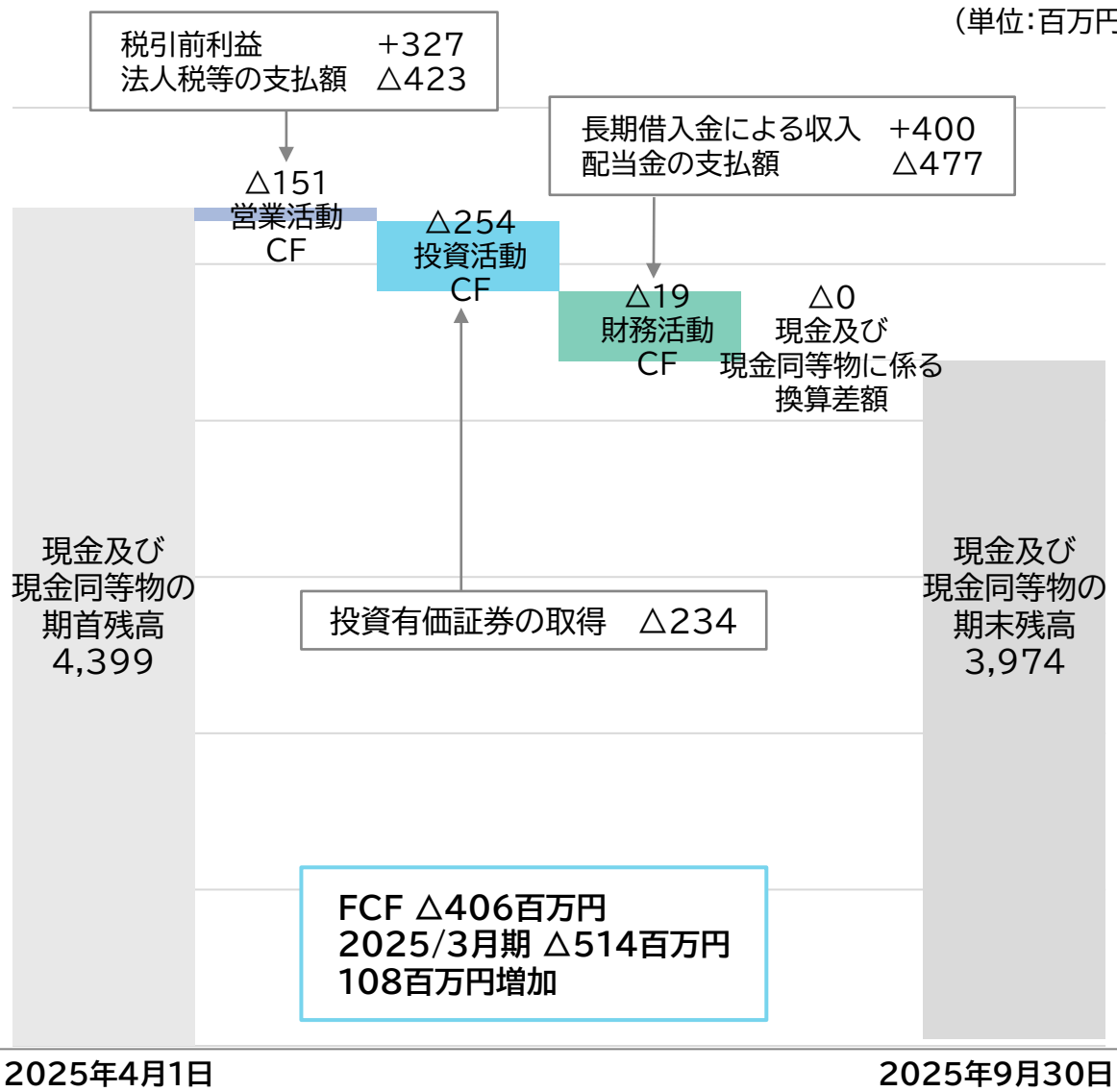
（単位：百万円）

	2025年3月期 期末	2026年3月期 第2四半期	増減額	コメント
流動資産	18,719	18,101	△618	
現金及び預金	3,599	3,124	△475	■ 法人税等や配当金支払いに伴い減少
受取手形及び 完成工事未収入金等	9,495	9,364	△130	
その他流動資産	5,625	5,612	△12	
固定資産	10,121	10,525	404	
有形固定資産	4,862	4,830	△32	
無形固定資産	283	248	△34	
投資その他の資産	4,974	5,445	471	■ 主として株価上昇に伴う有価証券評価差額の増加
資産合計	28,841	28,627	△213	
負債合計	7,591	7,456	△135	
（借入金残高）	490	950	260	
純資産合計	21,249	21,171	△78	
負債純資産合計	28,841	28,627	△213	

2. 2026年3月期第2四半期決算実績

⑤キャッシュ・フロー計算書（連結）

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	△2,611	△151	2,460
投資活動による キャッシュ・フロー	△18	△254	△235
財務活動による キャッシュ・フロー	866	△19	△885
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△0	△0	0
現金及び現金同等物の 増減額	△1,765	△425	1,340
現金及び現金同等物の 期首残高	5,359	4,399	△960
現金及び現金同等物の 期末残高	3,594	3,974	379



3. 2026年3月期業績予想(数値修正なし)

①業績予想のポイント

売上面

- 高付加価値商品の販売拡大、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大、手持工事の堅調な推移により増収の見通し

連結売上高 26,500百万円 前期比 +426百万円 +1.6%	ファスナー事業	8,900百万円	+726百万円 +8.9%	■ ニーズに対応する商品の提案営業などソリューション販売の強化 ■ 人手不足・省力化対策など高付加価値商品の販売拡大 ■ 官民建築、土木耐震補強・補修工事の受注
	土木資材事業	7,850百万円	+203百万円 +2.7%	■ 補助工法物件、トンネル補修工事物件の受注 ■ 西日本地区での物件減少による売上への影響 ■ 多発する自然災害復旧等による発注遅れの懸念
	建設事業	9,750百万円	△1,559百万円 △13.8%	■ 大型元請工事、トンネル補修補強・設備工事等の提案営業・受注強化 ■ 工期長期化における管理者拘束の影響で新規物件受注に制限

利益面

- 原材料価格の高騰、また設備投資や人件費の増加(共通)が見込まれるが、高付加価値商品の販売拡大、コスト管理の徹底により増益の見通し

連結経常利益 1,550百万円 前期比 +90百万円 +6.2%	ファスナー事業	740百万円	+34百万円 +4.9%	■ 原材料価格の高騰に伴う適正販売価格への転嫁 ■ 省力化対策製品の技術開発 ■ 労務費原価の管理強化
	土木資材事業	340百万円	△55百万円 △14.1%	■ 原材料価格の高騰 ■ 技術提案商材・新規商材による収益改善
	建設事業	470百万円	+110百万円 +30.9%	■ 工事实行予算の見直し・精査による適正な利益率への改善 ■ 技術提案営業による利益の確保

3. 2026年3月期業績予想

②セグメント毎業績予想ポイント

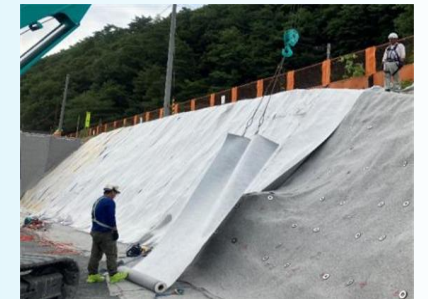
ファスナー事業

- 官民建築耐震補強・補修工事の順調な発注と受注(元請受注)
- 土木耐震補強・補修工事の順調な受注(前年度並み)
- 原材料価格高騰による適正価格への転嫁
- 人手不足問題、省力化に対するICT技術への取組



土木資材事業

- 独自工法・資材を活かし技術提案による補助工法の受注強化
- トンネル補修工事、重金属など環境対策資材の受注強化
- 高機能商材・新規商材の受注強化
- 多発する自然災害復旧等による発注遅れの懸念



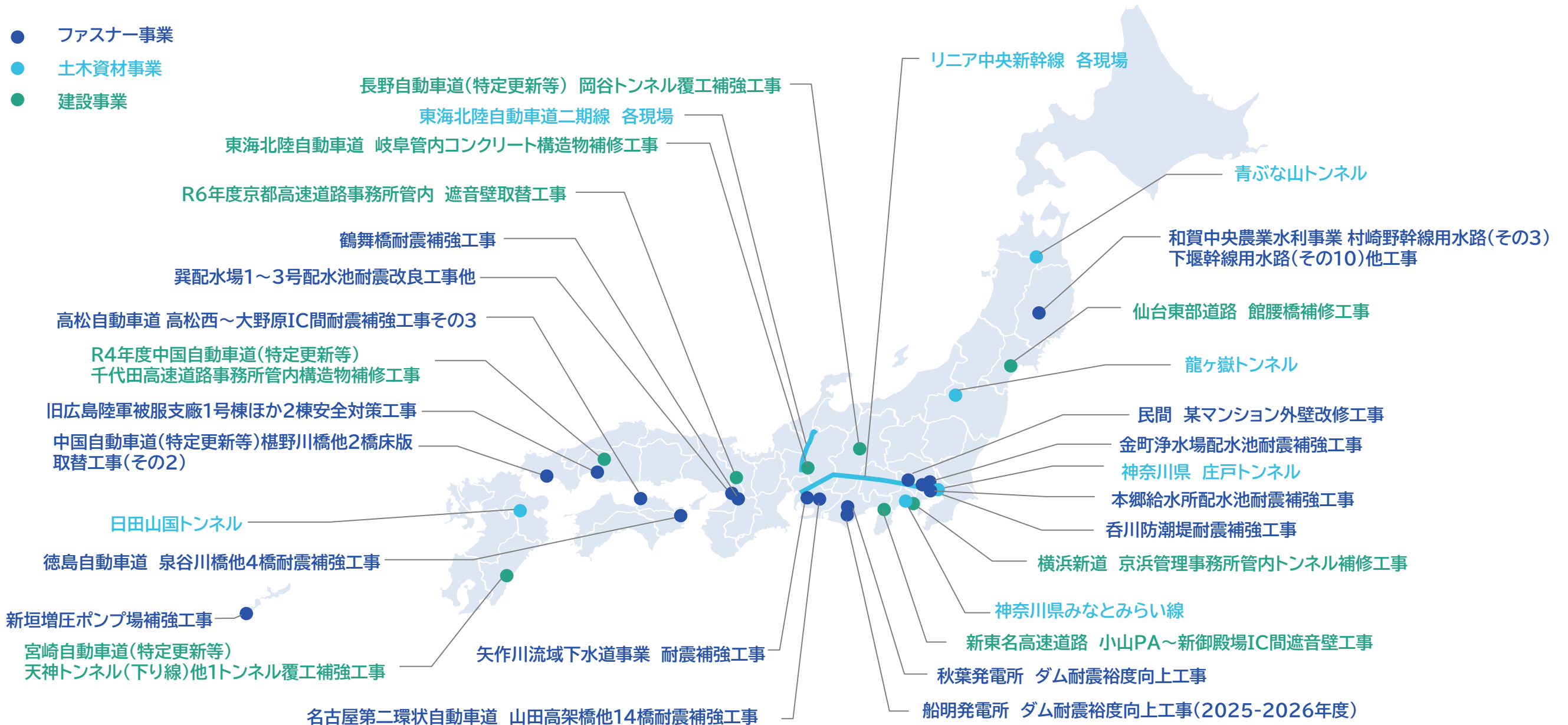
建設事業

- 全国的なインフラ補修・補強工事の発注は継続
- 元請受注拡大のため企業価値の向上を最優先
- 技術提案営業による受注強化
(連結子会社アールシーアイ)
- 東日本エリアにおいて需要が拡大している鉄道橋脚一面耐震補強工事への集中営業
- 道路橋脚一面耐震補強工事の選択営業強化



3. 2026年3月期業績予想

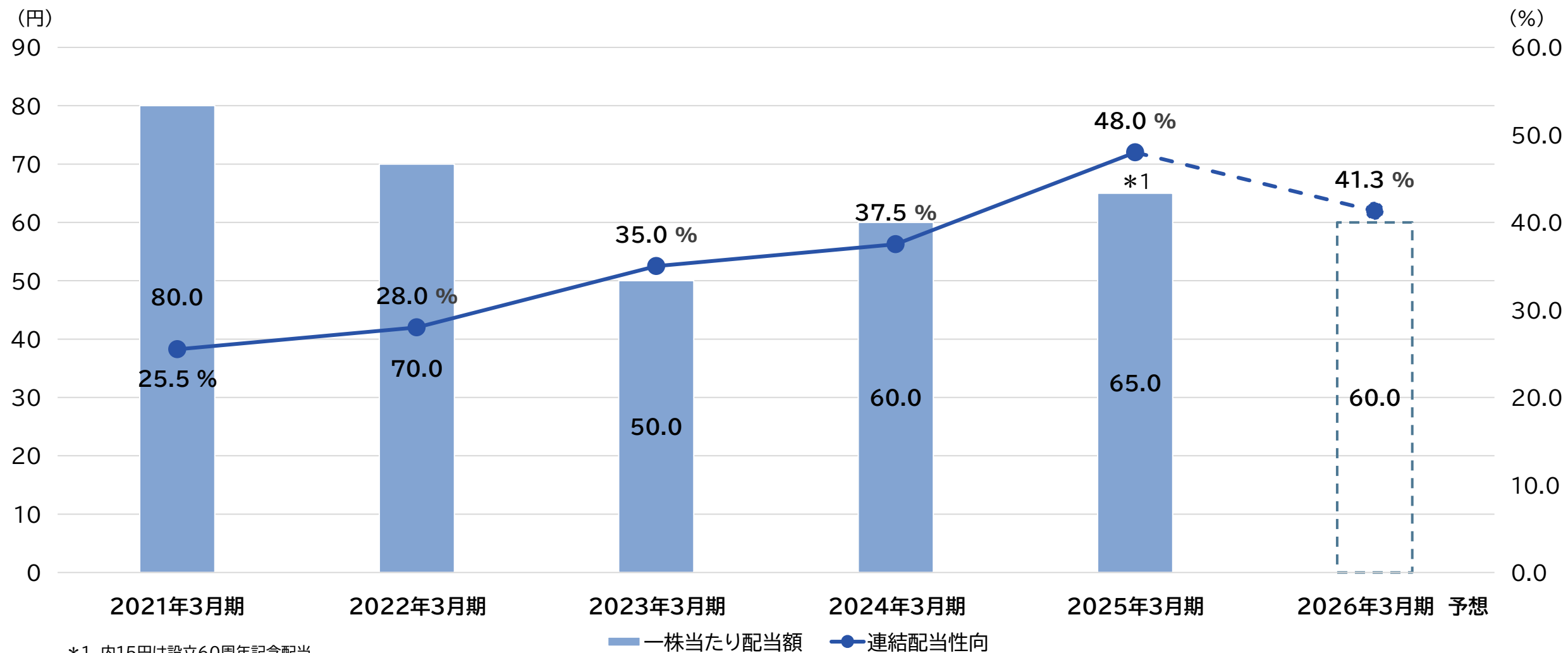
③主要物件の状況



4.株主還元・配当方針

配当推移

- 強固な財務基盤を維持しつつ、安定的かつ継続的な利益還元を重視することを基本とし、株主還元の充実を目指します
- 中期的目標は、連結配当性向40.0%とします



Ⅱ.経営戦略



1.事業環境認識

■ 建設市場を取り巻く環境

建設投資

- 2026年度建設投資は前年度比5.3%増の80兆7,300億円の見通し
建築:51兆4,600億円(前年度比4.1%増)
土木:29兆2,700億円(前年度比7.4%増)
政府投資・民間投資の両方で増加が続いており、第1次国土強靱化計画の本格始動もあり、今後も予算拡大が見込まれる
- 2026年公共事業関係費は6兆2,820億円(前年度比19.0%増)を概算要求
埼玉県八潮市の道路陥没事故を踏まえたインフラの老朽化対策、上下水道管路の更新や広域的・戦略的なインフラマネジメント、橋梁やトンネルといった道路施設の対策など、予防保全型のインフラメンテナンスに向けた取り組みを推進

資材価格動向

- 建設資材物価指数は、直近で全国平均143.7(前年同月比3.7%増)となり、上昇傾向は継続。特に土木部門においては64ヶ月連続での上昇となり、148.3(前年同月比4.4%増)に達し、最高値を更新
- 世界的な需給バランスの変化やインフレの影響、2024年問題等への対応に伴うコストアップなどを要因に、建設資材価格の高騰は総合的に今後も続くと思われる
⇒ コスト管理の徹底、代替資材の活用、技術革新の推進

建設就業者動向

- 建設技術者、技能労働者不足は解消されず、労務単価の引き上げは継続
- 2022年以降、離職者が入職者を上回る傾向。高齢化、若年層の減少により、人材不足の高止まりが長期化
⇒ 人材育成や技術継承の仕組みづくりの必要性
⇒ 魅力ある業界への変革が急務。労働環境の整備や生産性の向上、多様な人材の活用に向けた取り組みが重要
⇒ 人口減少下における将来的な建設業の担い手不足への備え

その他

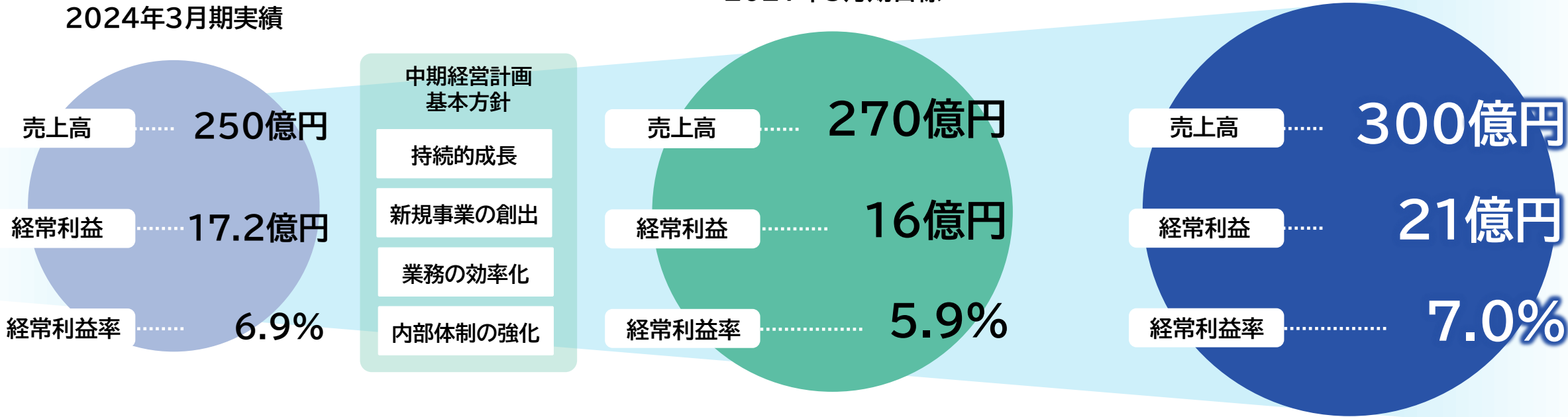
- デジタル化の遅れと『2025年の崖』
⇒ 確かな現場ニーズを踏まえた建設DX、BIM・CIM対応に向けた積極投資
⇒ 現場でのデジタル技術活用の促進およびデジタル教育の推進
⇒ DXを推進するためのIT人材育成やデジタル技術に精通した人材の確保
- サステナビリティの社会ニーズに対応した技術開発や新規事業の創出
⇒ 成長エンジンである継続的な「新規事業の創出」の実現
⇒ 気候変動リスクの軽減(カーボンニュートラル)に寄与する技術開発
⇒ 投資戦略の明確化(M&A、アライアンスの活用)

2.中期経営計画骨子

- 時代の要請に応え、起こりうる変化に適応し、持続的に成長可能な企業を目指します
- 中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉では、前中計で築いた土台をより強固にし、次の成長ステージの事業基盤を拡充する期間と位置付け、DX・人的資本経営・成長投資の拡大により資本効率を向上させ、さらなる組織力強化と生産性向上を図りながら、中長期的な企業価値の向上に邁進してまいります。

技術の力で人と未来を支える

2027年3月期目標



前中計(事業基盤の構築)

中期経営計画〈2025年3月期～2027年3月期〉

継続した変化と成長

2031年3月期目標

ESG経営の推進(環境・社会と共存できるサステナブルな事業体制の構築)

3.中期経営計画 経営指標

	前中期経営計画	中期経営計画<2025年3月期－2027年3月期>			
	2024年3月期 実績	2025年3月期 目標	2025年3月期 実績	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
売上高 (百万円)	25,070	26,000	26,073	26,500	27,000
経常利益 (百万円)	1,720	1,400	1,459	1,550	1,600
経常利益率 (%)	6.9%	5.4%	5.6%	5.8%	5.9%
配当性向 (%)	37.5%	38.9%予想	48.0%	40.0%	40.0%

4.中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉での取り組み

セグメント別の進捗・成果

セグメント	2025年3月期の進捗と成果	経常利益(百万円、%)			
		2025年3月期 目標	2025年3月期 実績	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
ファスナー事業	■ 土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大 ■ 工事管理体制の連携・強化、施工管理技士資格者の増加 ■ 部門間連携強化により、開発新商品『ZIKMO』の市場拡充や社内JVでの補強・補修工事の受注 ■ 検査成績書類の電子化により、業務効率の向上	670 (7.6%)	705 (8.6%)	740 (8.3%)	760 (8.4%)
土木資材事業	■ 施主・コンサル・ゼネコンへの営業強化により、トンネル補修工事、重金属対策の実績増加 ■ 技術提案対応の強化により、設計外補助工法における高機能商品の拡販 ■ 「ウレサポ」、「SMERTチェッカー」等、資機材のICT化が進む	300 (3.9%)	395 (5.2%) ※設計外補助 工法の受注 により利益増	340 (4.3%)	360 (4.4%)
建設事業	■ 2025年1月より勤務間インターバル制度を導入 ■ 災害協定や災害時の協力(4件)など施主が求める企業の信頼性・社会性の向上に向けた取り組み強化 ■ 施主・コンサルへのスバック営業強化、および地元有力業者との協力体制の強化 ■ 拝受した優良工事表彰の受賞要因の分析を実施し、周知・教育 ■ IoTを活用した現場管理推進と管理書類の簡素化により作業効率の向上	430 (4.5%)	359 (3.2%)	470 (4.8%)	480 (4.8%)

4. 中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉での取り組み

＜人的資本経営の強化～人材の活躍と成長に向けて＞

- 当社は2025年3月期からスタートした中期経営計画における重点分野の一つとして『人的資本経営の強化』を掲げ、事業環境の変化に柔軟に対応できる組織風土の醸成と人材の育成を図るとともに、従業員一人ひとりが心身ともに健康で生き生きと働き、持てる力を発揮できる職場環境の整備に取り組んでおります

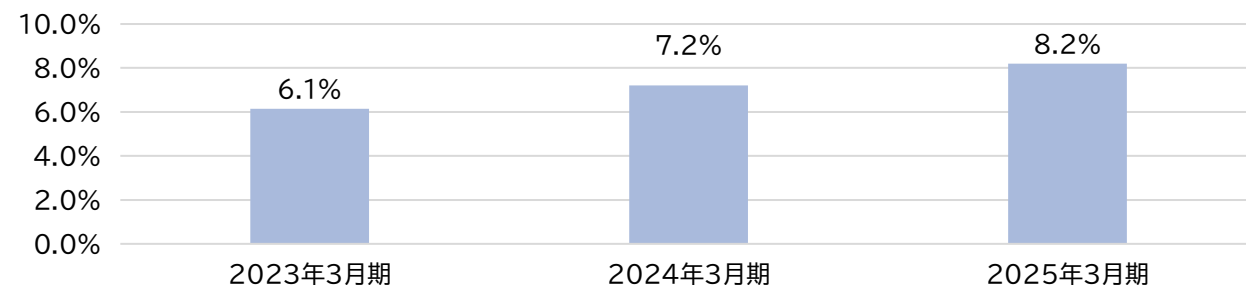
女性の活躍推進への取り組み

「えるぼし(3段階)認証の継続」

- 当社は「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5つの基準の全ての基準を満たし、女性活躍推進の優良企業として、厚生労働大臣が認定する「えるぼし」の最高位(3つ星)を取得



「女性管理職比率」



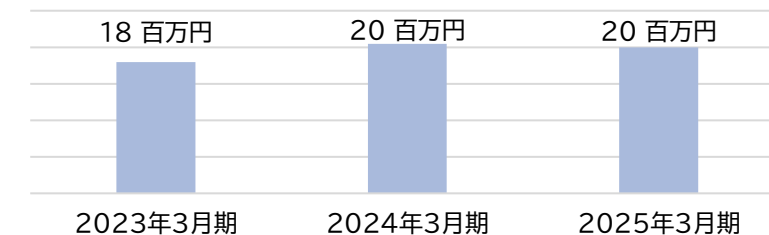
「女性施工管理者の増加」

- 施工現場の環境整備を推進
- 「建設小町プロジェクト」など女性が能力を発揮できる仕組みづくり

人材育成

- 全ての従業員に各種研修や資格取得奨励をはじめとした教育や育成の機会を提供し、能力を高める取り組みを推進

「教育研修費」の推移

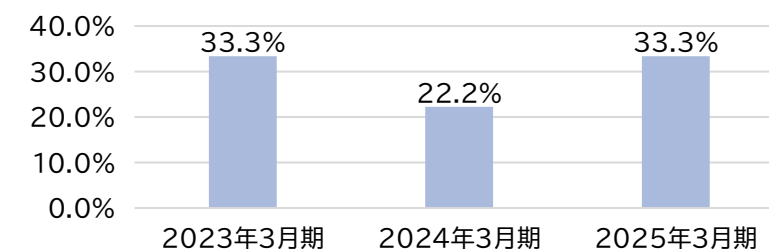


働きがいと働きやすさの向上

「健康経営」の推進

- 健康課題の把握
- 健康経営の実践に向けた土台作り
- 健康づくりに向けた具体策

「男性育休取得率」の向上



5.サステナビリティへの取り組み

- 当社がもつ強みや技術を活かし、事業を通じて社会的課題を解決していくとともに、環境・社会・経済のサステナビリティに関する取り組みを推進し、中長期的な企業価値の向上と誰もが安心できる豊かな未来の実現へ貢献します

環境 E

【当社の製品や工法を通じた環境対策】

- コンクリート補修、土木耐震せん断補強（RMA）等によるインフラの長寿命化、維持管理
- トンネル掘削土等から発生する重金属対策製品/施工の開発（パデムシート）
- 土木耐震せん断補強（RMA）を通じて、上下水道施設の機能性強化
- トンネル周辺の水環境保全の取組み（ウォータータイト）
- 従来の素材を変更し、環境負荷の軽減を可能とする製品や工法の開発（Me工法/SNEコモルタル他）
- 壁や屋上の建築物に、直接接着剤で貼り付ける太陽電池（Haru-PV）を開発



【事業活動を通じた再エネ・CO₂削減・資源循環・省エネ】

- 施工現場での環境対策
 - 環境に配慮した建設資材の利用とリサイクル・リユースの促進
 - 騒音対策や水質汚染の防止
- CFP算定プログラムの導入
- 2025年8月ISO14001マネジメントシステムを取得
- 技術研究所、流通センターでの太陽光発電の利用

社会 S

【人的資本経営の強化】

- 働き方改革の推進、WLBの実現（労働時間の適正化や勤務間インターバル制度の導入）
- 健康経営の推進（健康経営優良法人認定の継続）
- 従業員、協力企業を対象にしたコンプライアンス教育
- 国家資格取得にむけた教育支援の促進
- ダイバーシティの推進
 - 女性の活躍推進
施工現場の環境整備、また「建設小町プロジェクト」など女性が能力を発揮できる仕組みづくり
- 奨学金支援制度の導入



【社会貢献活動】

- 現場周辺のクリーン活動や災害時の地域救援活動
- 「こども本の森 中之島」への継続した寄付
- 被災地、ひと、地域をつなぐ市民参加型合唱「レクイエム・プロジェクト」への特別協賛



【安全・安心のための品質管理の推進】

- 労働災害ゼロへの取組み強化
- ISO9001マネジメントシステムの継続
- COHSMS（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証拡大



ガバナンス G

【実効性のあるガバナンス体制】

- 取締役会の機能性強化
- コンプライアンスの強化（定期的なリスク管理の徹底と意識向上）
- グループ各社・協力会社との適切な協働
 - コンプライアンスや人権意識啓発の共有
- ステークホルダーとの対話拡充

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



研究開発① トンネル掘削工事の自動化

- トンネル工事の自動化に向けたロックボルトや補助工法の資材・施工システムを開発
- 作業員が切羽や高所などの危険個所へ接近することなく安全に施工できる技術
- 苦渋作業の低減

ロックボルト自動打設関連の製品・技術

- ロックボルト自動打設用TD24繋ぎボルト:機械施工でも簡単に連結可能な3m+3mのロックボルト連結システムを開発したことで、ロックボルト長6m打設を実現
- MASHボルト:異形棒鋼の片端に特殊ヘッドを加工することでナットを必要としないロックボルトを開発(共同開発:株式会社フジタ)
NETIS登録番号:KK-240114-A
- RPE施工の自動化システム:RPEロックボルトの挿入・注水作業機械化するためにドリルジャンボのガイドシェルに取り付けるユニットおよび施工システムを開発完了し、自動化用ドリルジャンボへの搭載を検討中(共同開発:株式会社熊谷組)
- バレットカプセル:ロックボルト打設用に削孔されたボアホールに、エア圧送できるセメントカプセルと圧送システムを開発中



「ロックボルト自動打設用TD24
繋ぎボルト」



「MASHボルト」



「RPE施工の自動化システム」
試験施工状況

補助工法自動打設関連の製品・技術

- AGF-プッシュコネクト:AGF鋼管の接続をネジ式ではなく、ソケット挿入とすることでドリルジャンボのガイドシェルでの簡単接続を実現
- 採用実績17件

『ワンタッチで接続。』
AGF鋼管の接続作業を省力化。

施工性
向上

安全性
向上

AGF プッシュコネクト

「接続作業」を省力化。

『AGF-プッシュコネクト』は、AGF鋼管の接続部をソケット挿入としたことにより、ガイドシェルで接続することができます。

- 従来のネジ方式の作業に比べ、簡単に接続することができます。
- 構造上、緩みが発生しない機構となっています。
- ソケットを用いることで従来のネジ方式よりも高い接続部強度を有します。

形状(mm)	素材	引張強度(kN)	重量(kg/m)
φ114.3, t=4.5	STK490	400	12.2
φ114.3, t=6.0	STK400	400	16.1

鋼管のねじ込み回転作業無し！
緩み防止のネジ部の叩き作業無し！

ソケット

(イメージ図)

株式会社 ケー・エフ・シー



研究開発② i-Constructionへの試み

■ 防水シート溶着部の品質管理試験のICT化

SMERTチェッカー（防水シート溶着部品質管理試験のICT化）

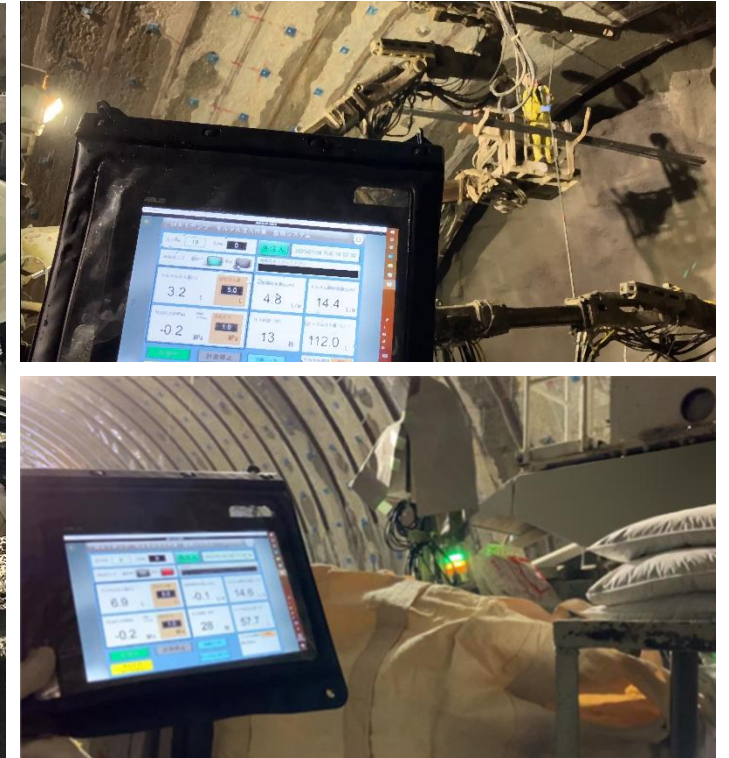
- SMERTジャッキに続き、防水シート溶着部の加圧・負圧試験装置をICT化
- デジタル圧力計を採用することで自動で合否判定・黒板表示・帳票出力を可能
- 小型のバッテリー式エアポンプを採用することにより、省力化に貢献
- NETIS登録番号: KK-240096-A
- 採用実績 1件



■ MAIポンプ専用設計のモルタル流量算出システム

モルサポ（MAIポンプ専用モルタル流量算出システム）

- MAIポンプ専用設計のモルタル流量算出システムで、固練りのモルタルにも対応
- 先充填/後注入どちらの充填方法にも対応
- タブレットで計測データの確認・操作が可能
- 計測精度±5%を確認
- 採用実績 1件



研究開発③ 非排水型トンネルの安全・品質向上を実現する技術

- 鉄筋組立の作業性向上
- 防水シート貫通部の止水性確保
- 採用実績2件、施工開始前受注物件1件

防水シート貫通部を完全止水する新技術『インテロック』

- 近年の研究により、貫通部の漏水メカニズムが概ね解明されました。インテロックはその漏水メカニズムに対応できる唯一の貫通型鉄筋金具
- 安定性、壁面との垂直性に優れた貫通型を使用することにより、高水圧(0.8MPa以下)や、大断面トンネルなどにも対応
- 独自の止水システムにより0.8MPaまでの水圧にも対応

NETIS登録番号 KT230270

特許取得済み

特許番号 7742692

共同開発：鹿島建設株式会社



- 全面接着による防水性向上
- 特殊加工により、異種材料との接合可能
- 断面変化部、立坑と横坑との接続も異材で解決

化学接着性防水シート『フィットライナー®』と異種材料による新防水工法

- 従来、異種材料との接着が困難とされたシート防水材において化学接着性加工により異種材料との接合が可能
- 断面変化部や、立坑と横坑との接続など従来技術では施工が困難な箇所も吹付けなどにより容易に処理可能
- 【独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構】による整備新幹線建設プロジェクト推進における防水工の技術公募にてA評価「適用の可能性が高い」を頂きました



● 高い水密性

モルタルと防水シートの水密性試験

1MPaで加圧
(水頭差100m相当)

モルタル柱

ポラスストーン

〈フィットライナー®〉



水みちは確認されず

品番:KV-200

公益財団法人
鉄道総合技術研究所

所見「十分な水密性を有しているものと判断される」

研究開発④ 国土強靱化・斜面防災事業への取り組み

- 25

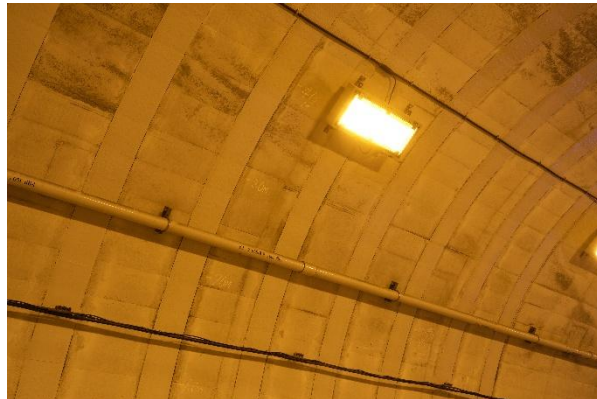
6. 経営戦略トピックス

新製品（インフラ維持管理）

- 施工後も覆工コンクリートの変状を目視点検できるトンネル内面補強工法

ガイナSHシートボード工法

- 補強後のひび割れ進展状況を継続して目視点検可能
- 帯板貼りでも炭素繊維シート全面貼り工法と同等の補強効果
- 高目付量(1200g/mm²)でも1層貼りが可能
- 全面貼り工法と比べて施工面積が1/4になるので、コスト縮減と工程短縮が図れる
- 接着剤と含侵材を別工程で施工でき、作業員の熟練度に左右されない
- 軽量でフレキシブルなので、取り扱いが簡単
- NETIS登録KT-230046
- 施工実績4件



- 緩衝材を必要としない樋系漏水対策工法

ガイナメッシュ工法Dタイプ

- 漏水対策と剥落対策を同時に行うことが可能
- 透明リブ付きシートなので漏水を逸走させることなく導水することが可能
- 躯体の変状、ゴミの滞留を確認する事ができ、メンテナンスも容易
- 緩衝材を使用しないので、取付けナットのトルク管理が可能
- 軽量なので現場での施工性に優れる
- NEXCO認証基準に合格
- 施工実績3件



6. 経営戦略トピックス

海外インフラ補修・補強市場への事業拡大

■ 海外インフラメンテナンス市場への商品販売展開

合弁会社ASIAM Infra Co.,Ltd.(タイ)の事業拡大

海外ブランド『NINJA』シリーズによるインフラ補修・補強事業展開のほか
日本の先端技術を海外へ

3月に発生したミャンマー地震の影響を受け、タイでは地震に対するリスク意識が高まっており、今後地震モニタリングシステムの採用、炭素繊維シートを用いた耐震補強工事の増加が見込まれる。また、バンコク市街地で道路陥没事故が多発しており、路面下空洞調査業務、空洞充填工事の増加も見込まれる。このような社会課題を当社の技術によって解決に導き、「ワンストップのインフラ補修・補強事業」の拡大につなげる。

- 合弁会社ASIAM Infra Co.,Ltd.によるメンテナンス市場への販売展開
- インフラ構造物の点検・調査・設計・施工・販売に関わる技術支援、営業支援
- 地震モニタリングのプロモーションをスタート
- 構造物補修補強工事の増加にともない、現地生産の検討を開始
- 現地企業との商品開発
- タイ国有鉄道(SRT)技術会議にて発表、出展
- タイ高速道路公社(EXAT)技術会議にて発表、出展



EXAT技術会議



NINJA CF SHEET
橋脚補強

**NINJA**



ラマ9世橋 構造物調査

技術の力で人と未来を支える

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ケー・エフ・シー

電話: 03-6402-8250/e-mail: kfc.ir@kfc-net.co.jp
(担当: 佐竹)

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。